

レビの会 ご案内

4月は日本語礼拝についての色々な話し合い、
交わりを共に致しましょう。

時間：本日4月13日(主) 部礼拝後

場所：3階食堂

次回：6月8日(主) 部礼拝後 3階食堂

7月は聖書勉強会を行います。

皆様の出席をお待ちしております。

時間：7月13日(主) 部礼拝後

場所：3階女性会室

日本語礼拝を長期欠席されている方

長谷井裕士さん(平野), 王双さん(中川東), 工内美智子さん(西),
大八木美紀子さん(西), 金聖奏さん(田島), 長原成七さん(田島),
丁良子さん(東大阪), 玄喜淑さん(東大阪), 上山博司さん(中央)
曹美代子さん(田島), 白川稔子さん(鶴橋) (11名)

3月度 活動報告

3/9 街頭伝道活動ティッシュ配布

参加者 4名

3/20 生駒山 登山

参加者 10名



ホサナ聖歌隊よりお知らせ

ホサナ聖歌隊練習室として3階310号室を授かり感謝いたします。

益々主に捧げる賛美が豊かなものとなりますように。

ホサナ聖歌隊 隊員募集中です。

練習時間：主日8時30分～9時30分

部礼拝後11時～12時(3F 310号室)



ご意見ご感想はリーダー、編集者までよろしくお願ひ申し上げます。

レビの会 リーダー：崔 朱里

レビニュース 編集者：宮脇盛人

メール rebi-news02519@hotmail.co.jp

レビの会 ニュース

http://www.osakachurch.or.jp/jpnworship_rebi.html

神様に愛されている喜びを、分かち合ひましょう。

レビの会 News



わたしは主、あなたの神
わたしはあなたを教えて力をもたらせ
あなたを導いて道を行かせる。

(イザヤ書 48:17)

発行 2008年4月13日(第2主日)

No. 63

題目：「予め定められている恵み」

在日大韓基督教
大阪教会
2008年4月6日

聖書箇所：エフェソの信徒への手紙 1:3-9

聖書には、「神の予定」という教えがあります。予定とは、予め定められているということ。この世界で起こるすべてのことは、神の摂理に従って、予め定められているというのが、予定の教えです。主は、「**一羽の雀さえ、父なる神のお許しがあれば、地に落ちることはない**」とおっしゃいました。すべてのことは神の御心にかかっているということです。すべてが主の御心ならば、すべては主の御心の中で、予め定められていると言えるのです。箴言16章33節には、「**くじは膝の上に投げるが、ふさわしい定めはすべて主が与えられる**」という御言葉があります。くじやサイコロのような偶然によって世界が動いているように見えても、「ふさわしい定め」が主によって与えられている、主の御心・摂理によって動いているということが語られています。そのことは、私たち人間の人生にもあてはまることです。詩編139編16節では、「**胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている。まだその一日も造られないうちから**」と詩人は告白しています。私が生まれる前から、私の人生の日々についてすべて記されているということです。このことは、主なる神が私のすべてを知り尽くしておられる方だという告白です。主が全知全能の神様ならば、当然、私がどこから来てどこへ行くのか、私の生涯の日々のすべてをも知り尽くしている方なのです。そうならば、神の御心の中ですべてが予定されている、予め定められていることが真実であるのです。

それでは、聖書の語る神の予定、予め定められているということは何を意味しているのでしょうか。一言で言えば、それは、神の救いの確かさを語るものと言えます。私たちに与えられている神の恵みと愛による救いは、神によって予め定められている、それも世界が創造される前から定められている、それゆえ、誰も覆すことができず、何ものも妨げることのできない確かなものなのだということが、予定の教えによって語られています。ですから、神の予定は、私たちの救いが動かすことのできない確かなことであることの保証でもあります。決して、私たちの人生が運命によってがんじがらめになっているということを語るものではありません。ただ、私たちの救いがどれほど確かなものであるかを語ってくれているのが、神の予定なのであります。その予定の中で、3節にあるように、「**神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました**」のです。

主を信じる者として、予め定められている神の救いを確信する私たちであることを願います。私たちはイエス・キリストの恵みの中で、神に知られる者となりました。私たちが神を知ることはいまいかもしれませんが、神様は私たちに完全に知っておられます。神様に知られていることは、神様に選ばれているということでもあり、神の恵みの予定の中に置かれているということでもあります。その貴い恵みの予定の中で、神様をたたえ、神様に栄光を帰する私たちであることを願います。何よりも、神様はその御心の中で、すべての人が救いへと導かれることを願われている、それが神の御心であり予定であるということ、このことを知り、深く覚えて、救いの恵みへとよりいっそう進んで行く私たちであることを願います。

孫信一 牧師

弱っているときにこそ 聖書箇所：Ⅱコリ 12：9-10

★ 弱さを隠す

私達はたいてい、自分の弱さや苦しみを他の人の眼から隠す。しかし、自分の心の葛藤を素直に友人に打ち明けることは、実は友人を尊重するという。もちろん、誰もが私達の隠れた苦しみや弱さを受け止められるわけではない。しかし、私達が成熟した大人になっていくことを本当に、心から願い求めているなら、必ず神様は、私達に必要な仲間を与えてくれる。

★ 孤立感からの解放

他の人が自分の苦しみを分かってくれた、本当に聴いてもらえたと実感できたとき、私たちは慰められ、孤立感から解放される。自分の苦しみや弱さを他の人と分かち合うことは癒しの最初の一步となる。悲しみのただ中であって喜びが生まれる。

★ 弱さを通してつながる

パウロは弱さの塊だった。重い病気をもち、生きる力も勇気も奪われたとき、窮地の中で3度、神に向かって「この痛みから解放してほしい」と叫んだ。その答えとして与えられたのが、今日の聖書の言葉。「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮される」。パウロの期待は裏切られ、病気は治らなかった。しかし「**病気や弱さをかかえたままのあなたでいい。私の力は、あなたが弱っているときにこそ発揮されるんだ**」というメッセージを与えられ、パウロはキリストを述べ伝える伝道者となされた。「この病気さえなければ、自分はどんなに幸せか」という思いを捨て、弱さをかかえたそのままの自分を見つめたとき、パウロはイエスの言葉に打ち震わされ、新たな力を与えられた。

私達は自分の弱さや痛み、悲しみの中心に触れることができるだろうか。それを隠したり、ぼかしたり、直したりしないで、ただその弱さや痛み、悲しみをそのまま感じることができるだろうか。自分自身の痛みや弱さを敏感に感じとれる者が、人の痛みや弱さに敏感に反応できる。

★ 弱っているときにこそ、神の力が働く

自分の弱さを受け入れること、また相手の弱さを受け入れることは、甘えではない。本気で変わろうと決断し、心の奥底にある真実な願いに誠実であるときにはじめてなされる。あるがままの現実から出発し、成熟していくこと。相手に対する壁を打ち壊し、自分の中に相手が入ることをゆるし、また自分が相手の中に入って行くために、より感性を敏感にしていくこと。

弱いときにこそ、私の恵みはあなたに十分である、あなたに関心を寄せている、あなたと共にいるとキリストは語る。そのキリストの力が宿るように私達は弱さの側に立ち、弱っているときにこそ力を発揮される神に信頼して、共にこの時代を歩んでいきたいと願う。



金智一 牧師